

□議員名：中村博行

1 白井市長の進退について

論点	次年度以降、本市が抱える課題と白井市長の進退について問う。
回答	課題の主な概要としては、企業誘致や海岸保全施設整備、浸水対策事業の継続実施、厚狭駅南の都市整備、地域公共交通の整備、人口減少や少子化対策、理科大薬学部設置など様々ある。来年の市長選については、候補者の中に白井の名前がないよう切に願っている。

2 農業政策について

論点	後潟の圃場整備の計画から現況、事業完了までの見通しはどうか。
回答	平成 21 年に地元の合意形成が整い、22 年、23 年度に地形測量や土壌調査等の基礎調査を終え、24 年度に事業計画書の作成を行った。そして、25 年度に施工の計画概要公告・縦覧、土地改良法に基づく手続を経て、26 年度から事業を行い、29 年度完了予定である。

論点	川東地区の圃場整備についての計画、考えを問う。
回答	県営土地改良事業として施工予定だが、計画から工事着工まで測量や調査、事業計画作成、法による各種手続等の諸準備に通常 4 年を要する。市としては事業を進めたいが、県事業の採択には様々な要件があり、地元との協議や県の指導を仰ぎながら取り組んでいく。

3 厚狭漁港のしゅんせつについて

論点	漁港の現状をどのように認識しているか。
回答	梶漁港は昭和 54 年、平成元年に泊地や航路のしゅんせつを行い、現在に至っている。しかし、厚狭川の河口部に当たり、泊地や航路に土砂が堆積しやすい地形となっており、漁業者の就業時間にも影響が出ていることは認識している。

論点	関係者の意見聴取はしたのか。
回答	漁業者から直接、意見を聞いている。また、漁協の 4 支店をはじめ、漁業関係者で構成される漁業振興対策協議会等を通じて意見交換も行っている。引き続き、漁業者との連絡調整を密にして、意見聴取に努めていく。

論点	今後の見通しを問う。
回答	漁業の環境は、担い手の減少や高齢化に加え、燃料の高騰、漁獲量の減少、魚価の低迷など厳しい状況にあり、なおさら、泊地や航路の維持は必要と考える。しかし、これには多額の費用を伴うことから、財政状況等を考慮し、県とも協議しながら手法等を研究したい。

#### 4 若者の就労について

論点	保護観察処分解除となった若者の就労を市が支援することについての考えを問う。
回答	就労に向けた様々な訓練や研修を受けることにより、自立支援を行うことは重要と考えるが、対象者への配慮や雇用条件など制度として定める必要がある。まずは保護司会など関係機関と協議し、採用の可否について検討したい。

論点	観察所に協力雇用主として登録されている事業所への優遇制度を設けてはどうか。
回答	本市の入札は、総合評価方式ではないので、更生保護の協力雇用主の登録に関する評価項目はない。しかし、小規模工事を対象に入札価格と総合的に評価する特別簡易型を試行的に毎年度一、二件実施しているので、その採用には県や他市の状況を、注視していきたい。